

まんさく

第293号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



社会福祉法人光寿会創立45周年記念講演会 令和5年9月9日

[文化創造館「銀河ホール」において開催]

写真は講演会后、千葉恭一先生と佐々木一家族会会長対談の様子。【関連記事：7頁】

☆2頁★

- * 今生より往く(ご逝去されたお年寄りのご紹介)
- * 職員募集のお知らせ

☆3頁★

- * ひやりはつと及び事故まとめ(上半期)

☆4頁★

- * 光寿苑敬朗記念式典
- * 苑内研修報告
- * 家族会より寄贈品の紹介

☆5頁★

- * 災害を捉える
- * 湯本温泉神社祭

☆6頁★

- * ひなたぼっこ運営推進会議録
- * 寄附・寄贈・面会

☆7頁★

- * 千葉恭一先生ご講演の様子

☆8頁★

- * 「光寿苑の日々」(4コマ漫画)
- * 「自然法爾」(おきさんのお話)
- * 「おわりに」

『今生より往く』

子と孫を愛し護り続けた母心は永遠に



照井 ヤエノさん【97歳】

「あばあ〜とご家族からそう呼ばれて愛されていたので、私も呼ばせてもらっていました。『んだすな〜』の秋田弁にいつも癒されてましたよ。お子様、そして3人の大事なお孫さんに囲まれ、幸せそうに笑っている顔が思い出されます。

《金子利加子》

愚痴1つもこぼさず生き抜いた優しき百年



石川 タカさん【100歳】

面倒見が良く、自分のことよりも他人のことを気にかけ下さる方でした。また、年齢を感じさせないほど若々しくワワフルでした。100年の人生のハイジに関わることができて、心よりありがたうございました。

《高橋龍正》

何事も積極的に向き合い生き抜いた生涯



高橋 利子さん【94歳】

毎月面会に来てくださるお母さん思いの娘さんたちに、必ず手を振って見送っていた利子さん。『まいちゃん?!』と私の名前も覚えてくれて、呼んでくれた事。楽しい時間を過ごせたこと、忘れません。ありがとうございます。

《柴田真衣》

職員募集中

殊に調理員募集!

- ① 町外の方等であれば、住まい等も併せてケアさせて頂きます (^_^)
- ② 期間限定でも構いません。お力下さる方、お待ちしております。
- ③ 上記の他、管理栄養士、介護士、相談員職等もお気軽にお尋ねください。

まずはお電話を! 0197-84-2526

【ひやりはっと及び事故まとめ】(令和5年度上半期)

合計 『166件』
前年同期比 『24件減』

※3件の介護事故については下線・斜め字にて表記

所見	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
内出血	4	16	11	15	8	14	68
擦り傷	1		1	1	1	2	6
表皮剥離			3(1)	1	1		<u>5(1)</u>
爪外傷				1		2	3
切り傷			1		1		2
裂傷			1		1		2
創傷						1	1
窒息	1						<u>1</u>
脱臼						1	<u>1</u>
無し	14	11	15	9	13	15	77
合計	20	27	32	27	25	35	166

事故内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
外傷	6	16	17	19	11	19	88
転倒・転落	6	4	4	4	8	7	33
与薬	1	4	2	2		4	13
管理ミス	1	3	4		2	3	13
経管栄養	2		1	2	3		8
紛失・破損	2		3			2	7
誤嚥・誤飲	1		1				2
ヒヤリハッ					1		1
異食	1						1
合計	20	27	32	27	25	35	166

場所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
居室	17	21	19	20	22	29	128
浴室	1		3	5	1	2	12
トイレ	1	2	2	1	1		7
ベッド		1	4	1		1	7
廊下	1		1			3	5
湯の町茶の		2			1		3
ホール			1				1
汚物処理室			1				1
外出先			1				1
せせらぎ		1					1
合計	20	27	32	27	25	35	166

事故発生時間帯	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
06:00 ~ 08:00		2	2	1	2	2	9
08:00 ~ 12:00	2	11	13	10	6	8	50
12:00 ~ 18:00	12	8	10	11	4	17	62
18:00 ~ 22:00	1	3	4	2	6	4	20
22:00 ~ 06:00	5	3	3	3	7	4	25
合計	20	27	32	27	25	35	166

要介護度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
要介護Ⅰ					1		1
要介護Ⅲ	7	7	13	5	10	15	57
要介護Ⅳ	8	9	12	13	9	11	62
要介護Ⅴ	5	11	7	9	5	9	46
合計	20	27	32	27	25	35	166



報告として挙げられたひやりはっと総数は『166件』、前年度同期比『24件減』となり、前年同期少ない発生件数を維持する事ができた。ただしその様な状況に於いても医療機関を受診する必要のあった『介護事故』が3件発生し、人員の配属や介護手順の見直し、意思疎通の回り方やより正確な状態観察について、課題を抽出して再発防止策を講じる必要に迫られた。また直近では原因不明の脱臼事故も生じている為、受傷しやすいお年寄りの身体に対して、より安全な介助方法についての検討を進めなければならない。

その他に見られた特徴としては、短期間で状態低下が進んだお年寄りに続発した転倒や外傷、移乗や車いすでの移動動作が概ね自立している方に継続して生じる内出血、反対に全く動けない方に散見される内出血等々、個々人の身体や生活状況から分析を進め、対策を講じていく必要がある。

光寿苑敬老記念式典

去る9月21日、内記西和賀町長にもご参列賜り、4年ぶりの記念式典が開催されました。今回は式典のみ開催。10月、お祝いの舞台をご披露します♪



光寿苑家族会より 「ワンタッチテント」 ご寄贈頂きました

光寿会45周年を記念し、家族会からご寄贈賜りました。心より感謝致します。

未だお年寄りにも、家族会の皆様にも、お披露目できておりません。早く使いたい一心であります！



出番を待つテントの現在の様子(笑)

★苑内研修★

「なぜ認知症の人は家に帰りたいがるのか」

《9月25日、28日》

「家さ帰る！」入居のお年寄りからよく言われる要望の一つ。色々な言葉掛けで対応している私たち。しかし、そもそも帰りたい理由は其々の背景があるはず。今回はその理由について意見を出し合い、その上で対応について考えを深めました。



想...

災害を捉える ~宮城県から発信します~

第1回「人生をあじわう」僧侶・白木澤 琴 さん

今回より、宮城県は玉蓮寺のお坊さんであります白木澤琴さんにご執筆頂きます。琴さんのお寺は、元理事長の祖電氏と長く深い交流がございました。祖電氏との出会いのところからご紹介いただき、いよいよシリーズが始まります。それではどうぞご拝読下さい。

① 人生をあじわう

「長生きというのは、ただ長さだけを考えていますけれど、それよりも大事なことは、幅もある、深さもあるということだと思います。」

この言葉は、平成24年12月、太田祖電先生が玉蓮寺の報恩講（親鸞聖人のご法事）において、力強くお話しくださった法話の一節です。お二人のご子息を若くして亡くされた悲しみについても、ありのままにお話しくださいました。30年以上にわたり、ご法話を頂戴しましたが、この年が玉蓮寺での最後のご法話となりました。

これまで祖電先生は、ご子息の急逝、ご自身の病い、冥様の死や、震災：壮絶な出来事に遭遇されました。しかし、その折々で、そのご自身の身を通して、仏法の深いあじわいを玉蓮寺のご門徒さんや私たち家族に伝え、苦難の中で一念仏申して生きていく姿勢をお示しくださいました。そして、自分に降りかかる悲しみ苦しみを大事に戴き、そこから歩み出す大切さも教えてくださったのでした。仏

法は生きる力になるのだと。

祖電先生が晩年、

「息子に先立たれるということがありましたが、おかげさまで命の尊さを気づかせていただきました。また、妻が亡くなるということがありましたが、また一つ、人生を味あわせていただきました。南無阿弥陀仏。穏やかに深く、合掌しつつ、こう語ってくださった婆が今も目に焼きついていきます。」

この度、祖電先生のお孫さんで光寿会理事長の宣承様から、「まんさく」へ寄稿する機会をいただき、大変恐縮いたしております。微力ではありますが、このような形で光寿会様のお手伝いをさせていただけるとかとても嬉しく、心より感謝申し上げます。

合掌



熱い語りで人気の琴先生

湯本温泉神社祭



9月8日の御神輿、9日の鬼剣舞と、久しぶりのご来苑に、お年寄りたちも大喜びでした♪

今月の登録者の方々

15 名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

第3回『運営推進会議』(9月20日)

△運営委員10名、職員3名▽

① 研修報告にありました、BCPとはどのようなものなのか教えて下さい。

② 災害の発生、あるいは感染症が発生したとしても事業を止めることなく、継続可能な計画を作成することになっていきます。例えば、人員数であるならば10人いた職員が3人欠けた場合、事業の何%なら実施できる、と言った計画作成のことをBCPと言います。

この計画は、感染症の部分と災害の部分の2つがあります。今回については感染症に関する研修がありました。

③ 今までは、災害が起きたら大変！備蓄必要だよ。水はこれぐらいあれば大丈夫かな！”等、大枠で考えていました。令和6年4月から、BCP作成が義務化となりますので、早急に進めていかなければならぬところですね。

④ 話は変わりますが、5月以降、コロナ感染症5類へと移行となり、初めての夏を迎え

ました。遠方からのご家族の面会があり、できれば外食希望とありましたが、所内の感染拡大の現状を踏まえ、利用者との飲食は控えて頂くことにしている決まり事をご理解頂きました。

現在の面会要件である15分の時間制限のもと、湖畔の宿内での面会が行われております。関西圏から4年ぶりの面会が実現したケースもございました。

⑤ 光寿会45周年記念講演会では、ホームケアクリニックさんの千葉先生からお話がありました。今、北上からの訪問看護も多く見られるようです。

⑥ 誰でもいつかは通る道とは分かっています。実際にその時どうすれば良いかの不安がありますね。

⑦ 必用年記念講演会の際に、私の生きるノートが配布されました。自分が病氣・ケガ・障がい・老いたら、自ら判断できなくなったらどう伝えたいか等、考えが変わったら書き直して良いというノートです。

⑧ 家族が当てになるかは別として、自らの終を考えたいです。

光寿会へのご支援

面会・外出 [9月1日～30日]

【対面面会】
★ 延べ45名 (対象入居者20名)

寄 附

★9月9日の光寿苑45周年記念講演会の際、27名の皆様より、お祝い賜りました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

訪 問

ひなたぼっこ運営推進会議 (9月20日)
★運営推進委員 … 10名出席

寄 贈

- ★ 高橋 あや子 様 [野々宿]
- ★ 匿名 様 [西和賀町]
- ★ 匿名 様 [神奈川県]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 高橋 康文 様 [新 町]
- ☆ 岩 淵 尚子 様 [北上市]
- ☆ 小田島 明文 様 [東京都]
- ☆ 山口 要子 様 [奈良県]
- ☆ 西和賀町ふるさと振興課 様

★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

おかげさまでした

千葉恭一先生による記念講演



去る9月9日の講演会。北上市で在宅での看取りを実践されているホームケアクリニックえん院長の千葉恭一先生の言葉に、感激させられました。聞いた人が、「望んだ場所です。聞く過程のために、日本人は勿論、ご家族とも密にコミュニケーションをとりながら、日々24時間体制で命をかける対応されている先生です。」

えん先生が研修医の頃に出会った方に言われた言葉が礎になっているの

だそうなんです。

「命を救おう」と志して医者になっただけです。初めて僕が心肺蘇生術をした男性。心肺停止で、初めて一人で病院に当直していた時でした。一生懸命、上の先生来るまで何とかしなきゃって人工呼吸器つけて、心臓マッサージして一命をとりとめた。そのままだが受け持ち、主治医としてみることにしたんです。

いよいよ機械を外せる時が来た。

その時、80代の男性の方でしたけど、その方が発した第一声やずっと耳に残っているんです。助けたので、感謝された気持ちも良かったので、その第一声や、何で助けたか、何で感謝しなくて責められることを言われるのか。それからと言うもの、その病室に向かうのがすごく足どりが重くて。医者になって30年経ちますが、ずっと覚えています。

当時は、自然に看取るということに許さなかった時代。僕はどんな方でも、どんな病気でも老すいでも、

「地域で看取る」

望んだ場所で自分らしく過ごすために



千葉恭一先生

社会福祉法人 光寿会
— 45周年記念事業 —

期日 2023年9月9日(土)
会場 文化創造館『銀河ホール』
時間 13:30開場 14:00開演(～16:30開演)
テーマ 「地域で看取ること」
日程 代表より挨拶 (14:00～14:07)
講師紹介と講演 (14:07～15:40)
まとめの対談 (15:55～16:30)

講師紹介
千葉恭一先生(ホームケアクリニック えん 院長)
京成船橋台東市白田出身
1993年 旭川医科大学卒業
1998年 船橋市立病院 消化器科医長
2001年 船橋市立病院 消化器科医長
2003年 日興中央クリニック 医局長
2013年4月 ホームケアクリニックスル 院長
2019年3月 (在宅医療支援診療所) 理事長

【分野】在宅医療、高齢者医療、緩和ケア、スピリチュアルケア
【その他】北上医師会理事(介護・在宅・緩和ケア担当)
北上市区障がい福祉推進協議会委員
北上市在宅医療介護連携推進協議会委員
北上市地域包括ケア支援協議会委員
ケアカフェさだかみ実行委員
北上市ケアネットワーク代表世話人
リレーフォーライフさだかみ副実行委員長、など

その他
参加費無料 社会福祉法人光寿会 45th 実行委員会
(ご寄付大歓迎♪)
問合せ 0197-84-2526 (代表)
どなたでも参加可

必ず心肺蘇生術をしてすべてを尽くしてダメだったら看取るってことを、上の先生から言われていましたので、その時、その男性の言葉が中々理解できなくて。ただその後、その方と色々お話ししている間に、どうしてその言葉になったのかというのが、多少なりとも分かってきた感じになりました。

医療とは何なのか？人の幸せは、命の長さという時間だけではないんじゃないか。自分自身の生きている意味、自分の本当の幸せ、自分らしく生きること、最期を迎えることがどういうことなのか、そういうことを考えるようになっていききました。

先生の原点、そして今、皆様も聴いてみては。



イラスト：1000

看取りの際、悲しみや淋しさの叫びがあふれ出す。殊に、送る側の心の準備が間に合わない時はより表出は激しい。その感情がある程度表に出るまで受け止めてさしあげる。すると、徐々に思い出話や感謝の心へと移っていく。尊き時間。

別れ路やただ曼珠沙華咲くばかり

久保より江

第92回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

「中秋の名月」
 出版する「講話聴記」の推
 敵に疲れて、寺の境内に歩み
 出た。池を回ると、名月の明
 かりに映し出されるように、
 ひと群の曼珠沙華(彼岸花)
 が咲いている。ふと、冒頭の名句を思い出した。
 俳人は、漱石が松山時代に下宿していた「愚
 陀仏庵」の持ち主の孫。彼女は「吾輩は猫であ
 る」のおしまいの方で登場する女学生、苦沙弥
 先生の姪・雪江のモデルだと言う。
 別れ路...この頃、友人の訃報に接すること
 が増えた。「我や先、ひとや先」。いつ「別れ
 が来てもおかしくない時」にいるのだとしみじみ
 思う。

月光の許をそぞろ歩く老僧を待ち受けていた
 かのようには、今は盛りの時を過ぎた彼岸花は、
 「やあ来たね」と微笑むか、の如く...
 暫し月を仰いだ。
 平安末の動乱期に茫然が見た月。戦国末期、
 近江小谷城が落城して、流亡の末にたどり着い
 たというこの寺の開基も見たであろう明月が、
 今、「別れ路」にたまたま私を照らしているの
 だ。

何か、「出会いの虚しさ」
 を思ってしまったがちな「別れ
 路」だが、俳人は、この秋霜
 の時節に漂として咲く彼岸花
 に、「永遠の時」を見ている
 ようだ。

おわりに

今年のある地区のおとこし(親鸞聖人のご法事)の場でのこと。その地区は20戸所屬していて、担当のお参り宿となるのは20年一回であるため、今年の担当宿も世代交代がされていった。

20年前、私の親達がこの家でおとこしをしていただいた記憶はあるのですが、その時私たち夫婦は仕事に行っていて親達に全て任せていた。今、主催する立場になって、親達は何も心配させずに仕事に出してくれてたんだと感じました。

20年の月日を越えて、おとこしという行事を通して、亡き親達の心に再会させてもらいました。

今、自分の中に仕舞っていた相続賜っていた心に出会い直す時。

※他の参拝者の心にも響いていました。